

第5回 有明海沿岸道路 筑後川・早津江川橋梁設計検討委員会

議 事 概 要

- 日 時 平成24年11月7日（水）16：00～17：30
- 場 所 福岡市博多区 福岡第二合同庁舎10階会議室
- 出席者 日野委員長、荒牧委員、柴委員、山口委員、小林委員、松田委員
小路委員、野口委員（代理）

【主な審議内容】

- 規約改正の承認
 - ・ 委員会に景観分科会の小林委員、辰巳委員を追加
 - ・ 委員会に地盤・構造分科会の前田委員を追加
 - ・ 委員会及び地盤・構造分科会に松田委員を追加
- これまでの経緯
 - ・ 第4回橋梁設計検討委員会で「鋼アーチ橋」を推奨橋種として選定
 - ・ オープンハウスを実施し、大多数の方から理解を得たことを報告
 - ・ 関係機関、団体の意見から概ね異論がない状況を確認
 - ・ 委員会の推奨案を基本として詳細設計に着手
- 詳細設計に向けての留意事項
 - ▼風洞試験実施までの検討事項
 - ・ 基本断面の決定
 - ・ 早津江川橋梁陸上部の形式（1連、2連）
 - ▼景観に関する事項
 - ・ アーチリブ、アーチライズの形状及び支点部の取り合い
 - ・ アプローチ橋の基本構造
 - ・ 付属物施設（防護柵等） など
 - ▼地盤・構造に関する事項
 - ・ 地質調査、原位置試験
 - ・ 免震構造の適用性検討
 - ・ 耐風設計 など
 - ▼ゲ・レーケ導流堤への影響軽減
 - ・ 改変範囲の最小化
 - ・ 解体・調査記録

○ 今後のスケジュール

- ・ 当面は風洞試験に必要な条件整理を行う
- ・ 来年度までに詳細構造を決定し、それまでに委員会を3回開催する予定
- ・ 細部の検討は両分科会にて行う
(詳細は委員会資料P 2 3 参照)

【委員の意見】

○ これまでの経緯

- ・ 資料P 6 において、鋼床版箱桁橋の施工実績は少ないとあるが、張出架設の場合であることを記載すること。
- ・ 資料P 1 1 において、土木学会とあるが、土木学会西部支部 選奨土木遺産選考委員会の意見であるため修正すること。また意見内容は再度確認すること。

○ 詳細設計に向けての留意事項

- ・ 橋梁形状は、4車完成形でアーチ形状は単弦構造と考えて良いか。
- ・ デザイン検討は、風洞実験や構造検討後によって、検討の余地やフィードバックできない場合があるため、事前に風洞実験・構造検討・デザイン検討の連携を図ること。
- ・ 資料P 2 1 において、導流堤の幅5.7mに橋脚が収まるとあるが、基礎の施工時にも解体が生じる旨を今後、対外的説明に留意すること。

○ 今後のスケジュール

- ・ 付属物施設の検討が風洞試験の後になっているが、付属物施設が橋梁の耐風性に影響する可能性があるため、風洞試験前に検討し、松田委員と検討すること。